

## ホームページ

### 図書を配架するまで

収書・整理課 松屋 あき

「図書館の仕事」というと、利用者に接することの多い、カウンター業務を想像される方が多いのではないのでしょうか。しかし、収書・整理課の仕事は、図書を配架する前までの業務が主となります。そこで、通常利用者が目にする事のない、図書を配架するまでの工程を紹介したいと思います。

配架までの図書の大まかな流れは「選書→発注→受入→目録整理→装備→公開」となります。「選書」は購入する図書を選ぶ業務で、新聞書評や出版者の新刊案内などから図書を選んでいきます。また、2006年度から年に数回「学生選書の会」という、学生が書店で図書館の図書を選ぶという企画を行っているので、図書館業務に興味のある学生は、ぜひ参加して下さい。

「発注」では、選書した図書や、教員から購入申請のあった図書を、既に所蔵していないか、予算内で購入できるか、などに注意し、発注データを作成します。その際、図書の価格や出版状況をインターネットで検索することが多いのですが、一般に流通していない図書などは、出版元へ直接問い合わせることが必要になります。また、春はシラバスで参考文献に指定された図書の発注が大きな仕事となります。

発注データを書店に渡すと、在庫がある場合は、すぐに納品されますし、出版者、特に海外からの取寄せとなる場合は、図書の納品までに時間がかかります。図書が納品されたら「受入」をします。受入では発注した図書が納品されているか、乱丁・落丁がないかなどを確認します。そして、確認後、図書に管理のための資料IDを与えます。資料IDは8桁

の数字からなり、印刷されたものを図書に貼付し、システムに登録します。資料IDは「0」から始まるものは和書、「1」から始まるものは洋書など、複数の体系に分かれており、体系に沿った資料IDを与えています。また、卵印と呼ばれる、受入年月日を記した印を押します。

「目録整理」では、受入した図書の書名・著者名・出版者などOPACに公開している書誌事項を作成・整理します。目録整理はNACSIS-CAT（国立情報学研究所の提供する目録・所在情報サービス）に登録された書誌を流用することが多いのですが、実際に図書が納品されてから、図書本体と書誌事項の一つ一つを確認し、利用者に分かりやすいよう、近畿大学の仕様に作り変えています。そして、主題・著者名などから図書に請求記号を付与します。「装備」では、請求記号をシールに打ち出し、図書の背の下部に貼付し、ルックスと呼ばれる、透明の保護シートを図書に貼ります。装備が完了し、書架に配架できる状態になったら、OPACに図書の情報を「公開」します。

このように、多くの工程を経て、配架されている図書館の本。図書を手に取ったら、手作業で貼付された資料IDや、ルックス、卵印を確認してみてください。図書館にまた、違った愛着が湧くのではないのでしょうか。

「知っていますか？図書館のこと。」

図書総務課 青木 斐

「本が読めていいね。」図書館に勤めていると時々こう言われます。「暗い。自習室。静かにするところ。職員は無愛想で、カウンターで暇そうにしている。」などのマイナスイメージを持たれがちですが、図書館の実態はあまり知られていません。実際の図書館業務は

多岐に渡り、利用者のニーズに応じて変化しています。中央図書館においても単なる自習室ではなく、真に利用者のためになる学術機関を目指し、ここ数年次々に新たなサービスを開始しました。代表的なものを以下に紹介します。

平成18年6月 第1回学生選書の会実施。

平成19年度 企画選書コーナー設置。

平成19年11月 メールによる「利用相談・質問」。(試行サービス。在籍者のみ対象。)

平成20年3月 「近畿大学学術情報リポジトリ」試験運用。

学生選書の会は、学生が書店へ訪れて図書館のための本を選ぶ会です。すでに5回実施しています。選ばれた本は貸出も多く、図書館としても学生のニーズを採り入れる良い機会です。しかし2007年度利用者アンケート(※以下、アンケート)によると58.5%が「知らない」と回答しています。一方で参加者の評価は高く、2度以上参加している学生もいます。魅力的な企画です。ぜひ参加してください。

企画選書コーナーは今年度より常設になりました。図書館員がテーマを定めて本を選びます。今年度の特集は「学ぶ人のために」「論文・レポート作法」「学生選書」「芥川賞・直木賞」「広告」、アンケートでリクエストが多かった「図書館員文庫」。展示もコメントカードやポップを飾ったり、手袋つきの直木三十五の本を展示したり、図書館員のコメントをカード目録に書いたりと趣向をこらしました。特に「学生選書」と「芥川賞・直木賞」について印象に残ったとの意見が多く、「論文・レポート作法」にも再度開催を望む声が寄せられました。また「図書館員文庫」の評判も良く、比較的読みやすい軽めの本だけでなく、堅い内容の本や英語に関する本が貸出されました。企画全体においても実用書や話題の本特集以外に、いわゆる名作の特集を望む意見が多く、活字離れといわれる学生の意外なニーズを知ることができました。今後の企画に生かしたいと思います。

残る二つは来館しなくても受けられるサービスです。前者はメールで利用者の学習や研究に関する質問を受け付け、回答します。後者は近畿大学内で生産された論文などの学術研究成果を電子的・永続的に保存し公開します。著者は自身の研究成果を広く世界に発信でき、読者は世界中から無償で研究成果を知ることができる。両者にとって有益なサービスです。今後学内の刊行物を中心に随時提供していく予定です。

このように図書館員は新たなサービスを日々企画しています。大学での学習は能動的なもの。自らが課題をそして答えを見つけなければいけません。図書館を知り、図書館のサービスを知り、ぜひ積極的に利用して欲しいと思います。

